

SDGs未来都市NAGANO実現 グローバルファシリテーターの育成

コンソーシアム

共通目標

政策提言

自己開発

地域

関心

ベース

SGHの成果
長野高等学校

コンソーシアム

- ・長野県総合政策課
- ・長野市
- ・長野県教育委員会
- ・信州大学教育学部
- ・信州大学工学部
- ・長野県立大学
- ・東京海上日動
- ・長野JC
- ・金鷄会（長野高校同窓会）
- ・長野高等学校

③グローバルネットワーク Global Network

海外交流の充実

- ・台湾高雄市教育局
- ・ハーバード大学
- ・MIT
- ・ミルバークハイスクール
- ・海外交流アドバイザー

②ローカルネットワーク Local Network

連携・協力・共有・伴走

- ・県内大学
- ・SSH、SGH指定校
- ・課題研究推進校
- ・フィールドワーク協力機関
- ・地域協働学習実施支援員

①アカデミック ネットワーク Academic Network

学びの深化・拡大

- ・京都大学、APU他関係大学
- ・卒業生
- ・金鷄会（長野高校同窓会）

ブレイク
スルー
発想

国際的な
対話力

レイヤー的
思考

協働

キャリア

SDGs

③

②

①

☆地域を学ぶ、地域で学ぶ

- ・インタビュー実践
- ・フィールドワーク
- ・課題探究学習
- ・地域ボランティア

☆世界を学ぶ、世界で学ぶ

- ・米国リーダー研修
- ・海外インタビュー
- ・海外留学
- ・国際会議 in 台湾

☆主体的な

プロジェクトの実行

- ・地域創生国際会議
- ・外部発表

ふりがな	ながのけんきょういくいいんかい	ふりがな	ながのけんながのこうとうがっこう
管理機関名	長野県教育委員会	学校名	長野県長野高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：長野県教育委員会

代表者名：原山 隆一

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：長野県長野高等学校

学科：■普通科 □専門学科 □総合学科

校長名：宮本 隆

2 取組内容

長野高校が、コンソーシアムと協働し、レイヤー的思考、ブレイクスルー発想、国際的な対話の3つの力を備え、長野県が掲げる「SDGs 未来都市」の実現に向けた実効性のある政策を提言できるグローバルファシリテーター育成のカリキュラムを研究開発する。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
長野県企画振興部総合政策課	金井 伸樹
長野市	加藤 久雄
長野県教育委員会	原山 隆一
信州大学教育学部	永松 裕希
信州大学工学部	天野 良彦
長野県立大学	金田一真澄
東京海上日動火災保険株式会社長野中央支店	橋本 有司
金鷄会（同窓会）	桃林 聖一

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

- コンソーシアム構成諸機関代表者会議における取組への評価、及び意見交換・情報共有。
- コンソーシアム担当部署会議における取組への評価、及び意見交換・情報共有。
- コンソーシアム構成諸機関の関係者を、生徒の課題研究等の発表会の評価者として招聘、生徒・職員への助言及び意見交換、アンケートの実施。
- 地元企業や行政機関が開催する地方創生に係る諸会議等への参加、課題に係るディスカッション及び解決策の提言。
- 学校及び同窓会 HP による情報発信。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

- コンソーシアム構成機関の情報共有に努め、「長野県 SDG s 未来都市計画」を踏まえた生徒の課題設定・課題解決能力の定着・向上を図るとともに、コンソーシアム構成機関相互の連携を強め、学校・生徒への指導・助言に努める。
- 課題研究発表会等を通じ、高校生による地域への政策提言を、地域から評価してもらうコンソーシアムの PDCA サイクルを確立することによる、地方創生に資する効果的なカリキュラム開発の推進。

- SDGs に関する地域の現実的な課題への理解を深めるため、東京海上日動火災地方創生担当部局、及び長野県・長野市等地域協働で行う SDGs グローバルワークショップ開催、課題設定における助言、県外フィールドワークのコーディネート。
- 英語による課題設定・課題解決能力及びコミュニケーション力・ファシリテーション能力育成のための、台湾交流高校、アメリカミルバーン高校、ハーバード大学との ICT を活用した事前の意見交換等の実施。長野県立大学及び連携高校と協働したプレゼンテーション大会の企画・運営。
- 課題研究充実のための、信州大学教育学部によるプログラミング能力の涵養。

(4) 海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

- 恵崎良太郎（松本空港国際化特別顧問）
 - ・2年次台湾研修旅行におけるプレ国際会議開催に向けた、高雄市教育局との受入れ校及び参加校に係る交渉・調整役として配置

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

- 岩破幸平（東京海上日動火災保険株式会社長野中央支店 広域・グローバル支援担当）
 - ・SDGs の基本的知識・理解のための初期指導における外部講師の招聘・調整。
 - ・広域フィールドワークにおけるコーディネート。
- 中村真紀子（元長野放送報道部及び広報部）
 - ・フィールドワークにおける、校内外の情報集約及び調整。
 - ・外部講師の招聘及び調整。
 - ・学校の HP による外部への発信。

(6) 運営指導委員会の体制

管理機関の長野県教育委員会教学指導課のもと、次の5名を予定。

- 清水 唯一朗（慶応義塾大学総合政策学部教授）
- 中村 正行（信州大学工学部教授）
- 中川 美紀（ソフトインテリジェンス塾代表・ビジネスアナリスト）
- 久世 良三（株式会社サンクゼール代表取締役社長）
- 山口 利幸（元長野県教育長）

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

- 年2回の学校評価アンケートを活用した保護者・学校評議員への成果報告。
- 年3回の運営指導委員会における成果報告、運営指導委員による成果検証。
- 年度末の事業報告書作成及び生徒による課題研究報告書の作成、関係機関への配布。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

○管理機関

- ・県内高校生対象の海外短期留学・研修機会の提供。
- ・海外を含む遠隔地との恒常的な交流を可能にする校内 Wi-Fi 環境整備、及び ICT 機器導入のための予算措置。
- ・事業の円滑な推進に向けた、地域協働学習支援員複数配置実現のための予算措置。
- ・2年目以降の海外交流アドバイザー複数配置に係る予算措置。
- ・事業の効果的な推進に向けた情報共有・意見交換の実施。
- ・長野県観光機構との協働によるアジア(中国・韓国)を中心とする海外諸機関との連携促進。
- ・「長野県 SDGs 未来都市計画」の実現に向けた、長野県知事部局をはじめとする庁内諸機関との連携強化。部局長会議における事業についての情報発信・情報共有。
- ・月1回の学校訪問による校長・事業推進担当者との打合せ・進捗状況確認。
- ・課題研究発表会や国際会議等での生徒・教員への評価・助言。

○コンソーシアム

- ・「長野県 SDGs 未来都市計画」の実現による地方創生に向けた、経済団体・金融機関等地域のステークホルダーへの横展開及び協働的な取組の促進。
- ・学校へのユース（若い社員）派遣による SDGs 基本的知識・理解のための教員向け研修会及び生徒への講義・ワークショップ実施。
- ・地域の課題設定における生徒へのアドバイザー的役割としてのユース派遣。
- ・大学・地元企業等地域諸団体と合同によるワークショップのコーディネート。

（9）事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

- 教材化による指導方法・ノウハウの共有及び持続可能な指導体制の推進・確立。
- 金鷲会（同窓会）の協力による卒業生の活用。
- コンソーシアムを通じての、企業・大学等外部機関による講師無償派遣。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	ながのけんながのこうとうがっこう				②所在都道府県	長野県
2019～2021	①学校名	長野県長野高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 843名	
普通科	280	281	33		601		
⑥研究開発構想名	SDGs 未来都市を創造するグローバルファシリテーターの育成						
⑦研究開発の概要	<p>「レイヤー的思考」「ブレイクスルー発想」「国際的な対話力」を育成する探究を学校設定教科「NGP」、学校設定科目「英語キャリアプロジェクト」及び総合的な探究の時間で行う。国際会議を開催し地方創生に繋がる政策を提言し、コンソーシアムと協働により発信する。学校だけでは完結しない、新しい学びの体系を研究開発する。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>○コンソーシアム・連携組織と協働し、長野県の掲げる「SDGs 未来都市」計画を実現に導くグローバルファシリテーターを育成する。</p> <p>(ア) 長野県や長野市が持つ強みを理解し、地方創生への興味・関心、意欲を養う。</p> <p>(イ) 各教科の学習に取り組むことにより、SDGs と地域課題について深く理解する。</p> <p>(ウ) レイヤー的思考、ブレイクスルー発想、国際的な対話力を育成する。</p> <p>(エ) 質の高い探究学習を可能にする情報収集能力・活用能力・発信力を身に付ける。</p> <p>(オ) 発信・討論・対話・ファシリテーションを可能とする英語運用力を身に付ける。</p> <p>(カ) 英語での PBL を通じて、グローバル人材にふさわしいキャリア形成を行う。</p> <p>(キ) コンソーシアムと共に、地域の SDGs 達成への有効な政策提言ができる。</p> <p>(ク) 将来「SDGs 未来都市」の創造に貢献できるようになる。</p> <p>(ケ) 地方創生に対して、主体的・継続的に関わろうとする姿勢を身に付ける。</p>					
		<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>○学校全体での指導体制・時間割内での指導が確立されている。</p> <p>1・2年生全員が取り組む「総合的な学習の時間」を、隔週で2時間連続の授業時間割に組み込み、全校指導体制を確立することで成果を挙げ、平成28年度のSGH事業中間評価ではA評価を得ることができた。今後は、探究的な学びのリーディング校として、長野県が2030年までに目指す「子どもから大人まですべての県民が主体的に学び、個々の持つ能力を社会の中で発揮している学びの県」創りに貢献し、地域教育にグローバルな視点を根付かせることが求められる。</p> <p>○地域の企業・大学・公的機関・同窓会の支援が充実している。</p> <p>SGH事業の5年間で培った地域の支援体制を基盤に、課題研究の充実を図ってきた。今後は、地方創生を担うグローバルファシリテーター育成に向け、さらなる教育の質的転換と学びの充実を図る必要がある。</p> <p>○発信型の英語教育に取り組み、グローバル化に対応した教育を進めている。</p> <p>グローバル化に対応した発信型の英語教育をさらに発展させ、英語の運用能力を高める</p>					

	<p>とともに、グローバル社会に適応できる人間的成長を促すキャリア教育と、日常的に異文化に触れる環境作りが必要である。</p> <p>○社会から求められる力を育成する土壌が整っている。 今後は、地域の課題解決に必要な、SGH 事業で開発した主体性・協働性を高めるカリキュラムに加え、より高度な課題解決能力の育成が求められる。</p> <p><仮説 1> 高校生が地域創生に向けた効果的な協働を通じて主体的に活動することで、長野県が「SDGs 未来都市・学びの県」にふさわしいグローバル人材育成の場となる。</p> <p><仮説 2> PBL 型の英語教育と教科横断型の学びを通じて、グローバル視点のキャリア観を段階的に育てることで、グローバルファシリテーターとしての資質が養われる。</p> <p><仮説 3> コンソーシアムと協働し、レイヤー的思考、ブレイクスルー発想、国際的な対話力を養成するカリキュラムを開発することで、生徒の探究的な学びの質が高まり、実効性の高い政策提言が可能となる。</p>
<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>○「総合的な学習の時間（1 年生より『総合的な探究の時間』）」を 1 年次「長野のグローバル戦略を探る」、2 年次「SDGs から見た長野のグローバル戦略」、3 年次「グローバルアカデミア」に編成し、課題探究を行う。</p> <p>○「長野のグローバル戦略を探る」では、全員が探究活動に必要な基礎スキルや多角的な視点、思考力・判断力・表現力の育成とともに、長野の地域課題を探る過程で、コミュニティーの魅力を発見し、グローバル人材に不可欠なシビックプライドを養う。</p> <p>○「SDGs から見た長野のグローバル戦略」では、「長野県 SDGs 未来都市計画」を基に全員が SDGs についての学びによって地域課題を見つめ直し、世界の変化と身の回りの変化を踏まえたレイヤー的思考から、課題設定力を育成する。さらに、1 年次に養成した探究学習基礎スキルを活用し、地域だけでなく海外も含めた多様な人々との対話を通じて、協働的な地域課題解決法を探る(多様化したチームでの協働)。</p> <p>○「グローバルアカデミア」では、選択生徒 33 名が中心となり、「地方創生国際会議 in NAGANO」を企画・運営する。この会議で地方創生に資する政策提言を行い、高校生・社会人を含めた多様な人々と提言について議論した上で、コンソーシアムとともに広く発信し、論文にまとめる。</p> <p>○1 年次「英語キャリアプロジェクト I」では、状況に応じた英語 4 技能の涵養と、情報モラルの理解及び実用的な ICT スキルの向上を図るとともに、グローバル社会の中で生きる将来の自分像を意識させ、必要なキャリア発達を目指す。さらに、興味関心を学術的な分野にまで広げ、教科横断型の学びへの関心を高める。</p> <p>○2 年次「英語キャリアプロジェクト II」では、会議をファシリテートする等、その場に適した英語運用力の育成と、ICT 機器を活用し遠隔地の他者と協働的な学びをする力を身に付ける。同時に、シビックプライドやクリティカルシンキングを涵養する。</p>

	<p>(2)カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>○SGH 事業で開発した「英語プロジェクト」で培った英語科を中心とする指導体制をベースにしながら、専門的な情報については外部人材を活用して補っていく。英語によるファシリテート力及び情報リテラシーの育成を目指す「英語キャリアプロジェクト」を発展的に実施する。</p> <p>○「総合的な探究の時間」については、SGH 事業で構築した事業推進室を中心とする全校指導体制を、コンソーシアムと協働する形で充実させ、地方創生に貢献できる実効性を持った政策提言ができる力の育成を図る。</p> <p>(3)必要となる教育課程の特例等</p> <p>○学校設定科目「英語キャリアプロジェクトⅠ」(1単位, 1年生全員履修)及び「英語キャリアプロジェクトⅡ」(1単位, 2年生全員履修)を設置し、「社会と情報」2単位を代替する。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>○「総合的な学習の時間 (1年生より『総合的な探究の時間』)(3単位)を、「長野のグローバル戦略」(1単位, 1年生全員), 「SDGs から見た長野のグローバル戦略」(1単位, 2年生全員), 「グローバルアカデミア」(1単位, 3年生選択)に編成する。</p>